



ステキな人が集い、ステキな街になる

柏の葉スタイル News



Vol.8

UDCK ニュースレター 2009年12月号

かしはなプロジェクト

庭やベランダから飛び出せ! 街の景観を創る“駅前ガーデニング”



植物や土と触れ合い、減農薬野菜など自然食材を自分流に料理する、そんなオーガニックなライフスタイルに憧れ、ガーデニングや菜園に興味を持つ人が増えています。ただ、都市生活では自宅の庭やベランダのスペースは限られているもの。ならば街全体を“自分たちの庭”と捉え、駅前のロータリーや道路で草花や野菜を育てて街の景観づくりにも貢献しようと、柏の葉キャンパスエリアで「かしはなプロジェクト」が立ち上がりました。

無料ガーデニング講座

柏の葉キャンパス駅西口のロータリーから千葉大学柏の葉キャンパスまでの歩道では今、「かしはなプロジェクト」として市民が花や緑を植栽し、街の玄関口を美しく彩っています。

植栽・水遣り・管理といった日々の活動をサポートするのは、藤崎事務所の鈴木富樹子さん。鈴木さんは、ららぽーと柏の葉の屋上農園を企画・設計し農園講座の講師も務めるガーデニングのプロ。鈴木さんが草花の特性や管理のポイントを説明すると、参加者はガーデニング知識を学ぼうと熱心に耳を傾けます。

このプロジェクト、千葉県から「持続可能な国際都市づくりのための新たな担い手育成支援事業」として採択され補助金を受けているので、参加料は無料。参加者は「ボランティア」というより、さながら「無料ガーデニング講座」を楽しんでいるようです。

野菜で魅せるアート

ここでの植栽の特徴は、草花だけでなくキャベツやパセリなどの野菜も育てている点。八百屋やスーパーで見せる姿とは異なり、成長の過程で可憐な花を咲かせる野菜も多いのです。実はキャベツも、18世紀に日本に初めて持ち込まれたときは観賞用だったとか。

駅前の植栽を見学した柏市民の板倉利恵さんは「野菜と聞くと地味な畑をイメージしてしまうが、ここではアートになっている。野菜の新たな魅力を感じて意識が変わった」と話していました。もちろん、野菜を見るだけではなく味わうのも参加者の楽しみのひとつ。収穫した野菜は皆で分け分け合せて、農的生活を楽しみます。親子の参加者からは「食育にもつながる」と期

待する声も聞こえてきます。

一方で「育児世帯でなくても参加できるのが嬉しい」と語るのは、参加者の三瓶由紀子さんと清水直美さん。プロジェクトを通じて知り合った2人は、偶然にも同じマンションの住民。ガーデニングという共通の趣味を通じて、初対面のときから会話が弾んだとか。「小さな子どもがいればママ友達がすぐにできるが、そうでないと同じマンションでも知り合う機会は少ない。かしはなの活動を通じて友達が増えるのが嬉しい」と、喜んでいました。



ガーデニングテクニックを学び取るうと、参加者は鈴木さんの説明に聞き入る。



参加者が集まるミーティングでは収穫野菜を使った料理が並び、活動成果を皆で味わう。

かしはなプロジェクト

癒しをもたらす園芸療法

「かしはなプロジェクト」の活動場所は公共空間。ゆえに、特定の人だけが楽しむ場所とならないよう、年齢や障害の有無に関わらず誰もが園芸作業に参加できる環境づくりが求められます。そこで、千葉大学環境健康フィールド科学センターと連携し、レイズドベッド（持ち上げ花壇）の設置が進められています。

レイズドベッドは、かがみず園芸作業が行えるために足腰に負担が掛からず、車椅子に座ったままでも作業が行える優れモノ。高齢者や身体弱者も気軽に園芸作業を楽しむことができるとあって、近隣の介護施設「ゆかりの家」や「なごみの家」、障害児の作業所「カモミール」からも、参加者が集まっています。「カモミール」を運営する笠井和代さんは「障害をもつ人もそうでない人も、一緒になって活動できる環境が地域には必要」と訴えます。

さらに千葉大学では、園芸作業を通じて心身に癒しの効果などを得る「園芸療法」の研究として、「かしはなプロジェクト」



レイズドベッドは年齢や身体的特徴に関わらず誰もが負担なく園芸を楽しめるユニバーサルデザイン設計。

」の作業前後に参加者のストレスや疲労を測定し、療法効果の科学的な検証が行われています。

無理せず自分流に楽しむ

植栽計画やプロジェクト運営方法についても、参加者が集まって話し合いで決められます。11月18日に行われたランチミーティングでは「花苗を植えるだけでなく種から育てたい」「いつも新たな発見があり刺激が得られる場にしたい」と、活発な議論が行われました。

中には「子どもの送迎や仕事の関係で頻繁には参加できない」という声も。プロジェクトの仕掛け人である藤崎事務所



キャベツやパセリなどの野菜が街の景観に潤いを与える。植栽管理は千葉銀行など地域の企業も協力。

と義務になってしまう。参加できるときだけ、自分にできることを、自由に楽しんでほしい」と呼びかけます。今では地域住民だけでなく千葉銀行など駅前の企業・店舗も、プロジェクトに協力して自主的に水遣りを実施。地域ぐるみでの景観づくり活動となっています。

「かしはなプロジェクト」は2010年3月末まで、定期的に植栽ワークショップを開催するほか、日常の植栽管理を行う参加者を常時募集しています。

参加申込や詳細はかしはなプロジェクト事務局まで。
 [WEB サイト] <http://kashihana.org/>
 [E メール] info@kcvn.net
 [電話] 04-7137-2221

キーパーソン・トーク



藤崎 健吉
株式会社藤崎事務所
代表取締役

幼少時から植物に興味を持ち、小学校の卒業文集で「誰でもできる家庭菜園」と題した作文を書くような子どもでした。その頃から、なぜか観賞用の草花ではなく、野菜に惹かれていました。どのような状況下でも健気に花を咲かせて実をつける姿に共感したのかもしれません。中学生になると自宅の2坪程度の庭で野菜づくりを始めました。

その延長で東京農業大学へ進学し、植物を科学的に研究。卒業後はフリーのプランナーとして、国際花と緑の博覧会（花の万博）の「日本政府苑」や浜名湖花博の「庭文化創造館」を手掛けました。植物は単に見るだけでなく、五感で楽しむことができるもの。環境や健康に優れた次世代都市づくりが進む柏の葉キャンパス地区でも、植物の力を使って

農や食をテーマとした取り組みができないかと考えました。

「かしはなプロジェクト」では、昔ながらの町会や新しいマンションの住人など様々な人が集まり、緩やかなルールの下で皆が野菜や花を育てて収穫し味わう、そんな「シェア・コモンガーデン」を目指しています。住民が自分たちで公共空間を創りあげ、農やエコをライフスタイルの中に取り入れていくことは、次世代都市の新たな豊かさになります。

県の助成を受けての事業ですので、当面のスケジュールは2010年3月末までと決まっています。ただ、期間終了後も市民の力で継続していく予定です。このプロジェクトで景観づくりのノウハウを学んだ市民が、各自の近辺で植栽活動を行い、将来的には街全体の道路を彩ってほしいと願っています。

□編集後記□

自宅の庭やベランダから飛び出し、街全体がガーデニングのフィールドとなるこのプロジェクト、自由に使える土地が少ない都市生活者にとっては最適です。趣味の活動がそのまま、街づくり・景観づくりにつながるという点もいいですね。「無理せず楽しむ」という点にも共感。(小林)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川
 〒277-8518 千葉県柏市若柴字元堂178-3 柏の葉キャンパス駅前148街区3画地
 TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
 E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉
アーバン
デザイン
センター

UDCK